

課題研究 4  
エジプトの子どもからみた日本型教育と  
Tokkatsu  
～エジプトのTokkatsu 実践からみえた日本  
の特別活動への示唆～

林尚示担当分



## 発表資料

[HTTPS://DRIVE.GOOGLE.COM/FILE/D/1FKFYCGC4MT  
M-G5VFWFPYCV0WOLIFBHQE/VIEW?USP=SHARING](https://drive.google.com/file/d/1FKFYCGC4MTM-G5VFWFPYCV0WOLIFBHQE/view?usp=sharing)

# はじめに

- 学会のプロジェクトでエジプトを訪問した。（杉田会員のご尽力に感謝します。）
- 日本社会に根差したウェルビーイングの要素（政府の教育振興基本計画・2023～2027年度）を視座として、エジプトの2つの小学校の学級会を分析した。
- その結果、幸福感、学校や地域でのつながり、心身の健康、安全・安心な環境などについては、学級会における発言から該当箇所の特定に至らなかった。
- 一方で、協調性、利他性、多様性への理解、サポートを受けられる環境、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現については、該当箇所が確認できた。
- 暗記中心、留年があり、理系の学力が低い状態から、集団や社会の形成者としての認識をもち、すべての子どもが批判的思考力を発揮できるようにスキルベースの学際的アプローチを導入する場合、日本の学級会等は適した活動型の教材である。
- エジプトと同様の関心を持つ国々には、特別活動は同様に受け入れられるかもしれない。（杉田会員からも類似のご指摘あり）
- エジプトと同様の価値観を共有するアラブ諸国にとって、学級会などは受け入れられる素地がある。



# 教育振興基本計画とは

- 教育基本法に基づいて政府が策定する教育に関する総合計画。
- 教育の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とするもの。
- 第4期は、2023年6月16日に閣議決定された。
- 2023年から2027年度までが対象。

# エジプトの学校

- エジプトで次の学校のTokkatsuを参観した。
- EJS 第10ラムダン小学校の学級会（授業内容は「先生に感謝の気持ちを伝えよう」）
- EJS ニューカイロ小学校（授業内容は「クラスのロゴを決めよう」）
- 京免会員らのご尽力で文字起こし等が行われた。



# 方法 林の視点

- ウェルビーイングは1947年に採択された世界保健機関（WHO）憲章の前文に健康の定義として登場したものの。
- 持続可能な開発目標（SDGs）の目標3「すべての人に健康と福祉を」の原文も“GOOD HEALTH AND WELL-BEING”。
- 2015年の「生徒の学習到達度調査」（PISA）に関して経済協力開発機構（OECD）は報告書『生徒のwell-being（生徒の「健やかさ・幸福度」）』（国立教育政策研究所訳）をまとめた。
- その後OECDは、世界に向けて新しい時代にふさわしい教育の在り方を提唱する「Education2030プロジェクト」の成果として打ち出した「ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）」の中で、ウェルビーイングを学習者が目指す理想の目的地とするイメージが示された。
- 中教審の審議にも影響を与えている。（ヒアリングでOECD日本オフィスが資料を基に報告しているため。）

# 結果 ウェルビーイングの要素

番号	非認知能力の例としての日本社会に根差したウェルビーイングの要素	EJS 第10ラムダン小学校	EJS ニューカイロ小学校	定義	選定理由
1	「幸福感(現在と将来、自分と周りの他者)」	該当なし	該当なし	心地よく満ち足りていると	
2	「学校や地域でのつながり」	該当なし	該当なし	学校や地域で連携・協働すること	
3	「協働性」	相手の意見に耳を傾け、協力し合う。反対している人たちを説得する努力もした。ディスカッションは前回よりも良かった。次回はもっと良くなるだろう。 <b>お互いの意見に耳を傾け、協力し、納得していない人を説得し、議会は前回よりも良くなった。</b> ノートレコーダー 0:05	ディスカッション中は静かにし、 <b>全員が参加・協力</b> する。 アブド・アラールリーダー2 04:04	異なる立場や意見を持つ人々と円滑にコミュニケーションを取り、共通の目標に向かって協力して働くこと	目標に向かって参加者が <b>協力</b> している場面
4	「利他性」	封筒を作り、感謝の言葉を入れる。 <b>封筒に感謝の気持ちを書く。</b> ザイアッド 02:54	<b>みんなが参加</b> できるような抽選をすべきだと思う少女 25:28	自分よりも他者の利益を優先し、積極的に行動すること	自分のことよりも他者への <b>感謝</b> や <b>全員の参加</b> を優先する場面
5	「多様性への理解」	放送に <b>参加したくない子</b> には、カードを作るなど、いろいろな提案ができる。ラジオで言いたくない人はカードを作ってラジオで言うという案もあるかもしれない。ノートレコーダー 14:00	<b>他の提案に同意する人、あるいは同意しますか？</b> それとも次の段階に進みますか？(決定段階) モハメド・ハイサム リーダー1 20:28	多様な人々の存在や考え方を認め、尊重すること	<b>参加したくない子</b> や <b>他の提案</b> に同意する人など多様な子どもを尊重している場面

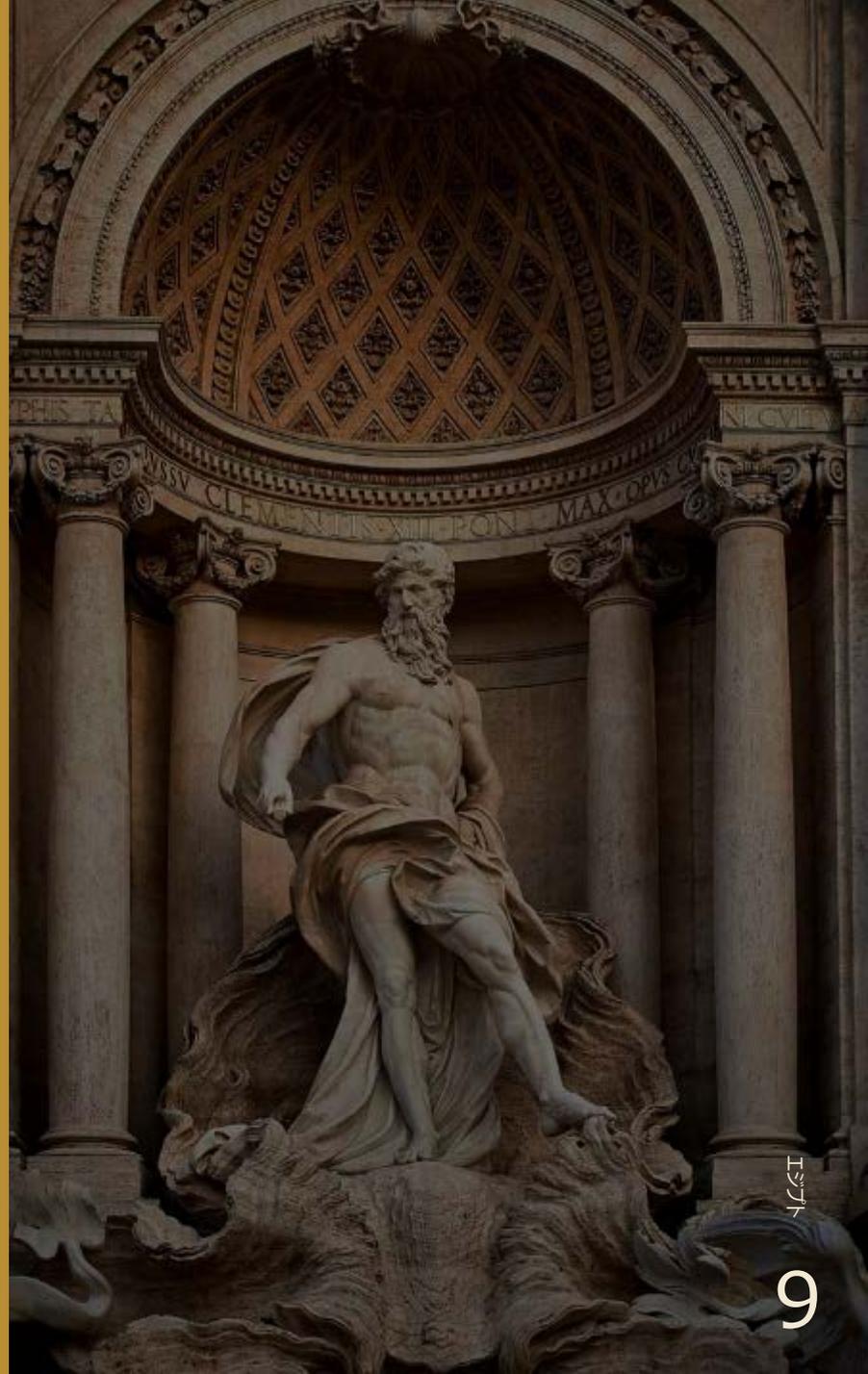
# 結果 ウェルビーイングの要素（続き）

番号	非認知能力の例としての日本社会に根差したウェルビーイングの要素	EJS 第10ラムダン小学校	EJS ニューカイロ小学校	定義	選定理由
6	「サポートを受けられる環境」	Al salam Alikom ! その前に... 今回の教室でのディスカッションについて話し合い、フィードバックしてほしい。 私たちのスピーチの前に、あなた方の協議会についてのご意見をお聞かせください。私たちはお互いに話し合い、皆さんの考えを知る必要があります。先生 28:02	首脳陣の許可を得て、口出ししてもいいですか？ 道から外れてしまったので...。先生 16:45	子どもだけで抱え込まず、専門家の力を借りられる環境のこと	専門家としての教師がサポートをする場面
7	「社会貢献意識」	該当なし	というのも、クラス全員が女の子も男の子もスポーツをするからだ。だから、どのクラスにも合う アセム(男の子) 18:09	自分一人ではなく、社会全体のために何か役に立ちたいという気持ちのこと	「クラス全員」という小さな社会全体を意識している場面
8	「自己肯定感」	該当なし	私たちは皆強いから アブド・アッラー(少年) 20:19	ありのままの自分を肯定し、好意的に受け止めることができる感覚のこと	自分を含めて自分たちは「皆強い」ということを肯定的に受け入れている場面
9	「自己実現(達成感、キャリア意識など)」	該当なし	もし同僚が賛成している提案に賛成できない場合は、彼の後に自分の意見を言うことができます。あなたは私たちのクラスで選みたいロゴを選び、複数のスローガンを組み合わせることができます。リーダーの皆さん、ありがとうございました。先生 16:45	自己の内的欲求を社会生活において実現すること	教師が子どもの自己実現(自分の意見を言うこと)を促す場面
10	「心身の健康」	該当なし	該当なし	心と体が良好な状態にあること	
11	「安全・安心な環境」など	該当なし	該当なし	社会的に合意されるレベルの安全が確保され、信頼が醸成されていること	

# 林分担部の考察

## 論点の提案

- エジプトの Tokkatsu実践から見た特別活動への示唆
  - ウェルビーイングの一部についてエジプトの Tokkatsuでも表出場面があり実践がなされている。
  - 2つの学校の Tokkatsu実践からは、幸福感、学校や地域でのつながり、心身の健康、安全・安心な環境については、エジプトの授業では意識されていなかった。（日本と差異の可能性もある。ただし、土屋会員からも別の視点から差異のご指摘あり。）
- 示唆 日本では日本社会に根差したウェルビーイングと表現しているが、エジプトの学級会からもウェルビーイングの育成の工夫については示唆を得られる。



【日本特別活動学会第33回つくば大会 課題研究4】

エジプトの Tokkatsu 実践からみえた日本の特別活動への示唆③

# エジプトの「子どもの世界」からみたTokkatsuの役割

—現地でのインタビューをもとに—

---

相庭 貴行（筑波大学大学院・博士後期課程）

# はじめに：本発表の視点

- 発表者は、2023年12月末にEDU-Portのメンバーとしてエジプトに渡航、計7名の児童・教師・TOにインタビューを行う
- エジプトのEJSにおけるTokkatsu…Tokkatsu自体はトップダウンで導入された点に特徴があるが（山田2023）、児童が積極的に参加していた

→（EJSが比較的高い社会階層の家の子どもが集まっているということは考えられるが、そうであるとしても）エジプトの子どもにとってTokkatsuが意味のあるものとして受け入れられていたと考えられる

## 《本発表の視点》

エジプトの「子どもの世界」からみて、  
Tokkatsuがどのような意味を持っていたのか？

→日本の特別活動に対して示唆を得たい



↑ EJS教師へのインタビューの様子  
(2023/12/26、カイロ市内のEJSにて)

# エジプトの児童から語られたもの

## 【児童インタビューから】

- 「リスペクトされるのがうれしい」  
→ 自身の価値や能力を認められる喜び
- 「みんな喜ぶのでやる気が出る」「サポートするのが楽しい」  
→ 自身の能力を他者のために生かす充実感

↓表：児童インタビュー概要

	実施日	学校	性別	学年	インタビュー時間
児童A	12/25	X校(EJS)	F	6年	29分
児童B	12/26	Y校(EJS)	F	5年	24分

## 児童が自己有用感の高まりを実感している

↓表：児童インタビューの主な回答内容

質問内容	児童A	児童B
学級会に対する印象と実施したことによる変化	<ul style="list-style-type: none"><li>● <u>Respectされるのがうれしい</u></li><li>● 自身：<u>意見が言えるようになった</u></li><li>● 友人：否定ではなく<u>議論するようになった</u>、<u>ほめること</u>が増えた</li><li>● 学級：家族のように<u>助け合うようになった</u></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 最初は意見聞かない人もいて少し大変だった</li><li>● 自身：<u>自由に意見言えるように</u></li><li>● 学級：言っても大丈夫と<u>感じられるようになり</u>、<u>相談</u>することも増えた。ほかの時間も相談増えた</li></ul>
日直に対する印象	<ul style="list-style-type: none"><li>● リーダーになって<u>respectされることがうれしい</u></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 先生を<u>サポートするのが楽しい</u></li><li>● 家でも家族を手伝うようになった</li></ul>
掃除に対する印象	<ul style="list-style-type: none"><li>● 最初は消極的だったが、<u>やるとみんな喜ぶ</u>のでやる気が出た</li><li>● 家でもやり方教えている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● がんばっている、家に戻ってもほうきの使い方などを教えている</li></ul>

# エジプトの児童の置かれた背景

## 【受験競争の激化と一方的な教師-子ども関係】

- エジプトの学校：試験制度を中心とした学力重視の特徴（中島2017）、学力競争に
- Tokkatsuを通して、教師と児童の関係は「命令」から「話し合い」になった（教師インタビューから）  
→従来は教師が子どもに一方的に指示する関係

## 【満たされない自己有用感】

- 子どもたちは管理された環境のもとで学力競争に巻き込まれる  
→子どもは学力によって評価される存在となり、自己有用感を高めるような機会を得られず
- エジプトの子どもの課題としての、「自分が自分」（=我先に）という態度（Tokkatsuオフィサーへのインタビューより）  
→満たされない自己有用感を得るため、他人のことは考慮せず自分の要求を通そうとする  
→子どもたちどうしも競争的な関係に

## 【エジプトの教育的課題に】

- エジプトが当初日本式教育に求めたのも、「規律や協調性などの人格軽視などを重視する日本式教育」（杉田2018）であり、規律や協調性の育成が課題
- エジプト社会全体の問題として、他者の意見を聞く機会がなかった（Tokkatsuオフィサーへのインタビューより）

# 考察：エジプトの子どもにTokkatsuが果たした役割

## 【エジプトの子どもの課題】

学校や社会の中で、自己有用感をはじめとする子ども自身の心理的ニーズが十分に満たされていなかった。

### Tokkatsu導入前

「自分が自分」という態度で、児童が自身の能力を自分のみのために用いる  
→他者と衝突し、自己有用感が十分高まらない

### Tokkatsu導入後

Tokkatsuを通して協力する、他者に手助けするなど、自身の能力を他者のために用いるという経験  
→感謝されることなどを通して自己有用感を高める  
=自身の心理的ニーズを「正しく」満たす経験

### さまざまな価値を学び身につける

- 他者の意見を聞く
- 他者と協力する

# 日本の特別活動への示唆

## 【社会文化を超えたTokkatsuの意義】

- 日本の特別活動も、その深層における教育文化の一つとして「自律性」「所属感」「達成感」という**心理的ニーズの充足に貢献**することがあると指摘されている（京免2021）  
⇒充足されるニーズの中身はエジプトのTOKKATSUと異なるものの、心理的ニーズの充足という点は共通

## 【日本の特別活動の課題を乗り越える】

《**子どもの自主性**⇔**教師の指導性**》という問題

子どもが**何を求めているのか**ということ把握し、特別活動を通してそれらのニーズを「**正しく**」**満たしていく**ことができるように指導することが必要であると考えられる

心理的ニーズを把握するために、「**子どもの声**」を聴いていく取り組みを模索することが重要。

## ※エジプトのTOKKATSUと文化の関係について

- エジプトの学校では、イスラム教が非イスラム教徒にも受容可能な普遍的価値として教えられている（八木2022）。  
⇒TOKKATSUはこのような普遍的価値を学ぶ場としても位置づけられている？

# 参考文献

- 京免徹雄（2021）「アメリカ人研究者からみた日本の特別活動の特質—日本型モデルの発信を視野に入れて—」『日本特別活動学会紀要』29号、pp.41-50
- 杉田洋（2018）「エジプトでの TOKKATSUの現状と可能性」『日本特別活動学会紀要』26号、pp.1-7
- 中島悠介（2017）「エジプトにおける 特別活動」を通じた日本式教育の導入と課題に関する考察—現地報道を手がかりに—」大阪大谷大学教育学会『教育研究』43号、pp.47-55
- 八木久美子（2022）「エジプトの公教育におけるイスラム—世俗的国家のなかの国教」『東京外国語大学論集』第103号、pp.83-99
- 山田真紀（2023）「特別活動の海外展開：エジプト・インドネシア・モンゴルでのTOKKATSUの実践を中心に」『椋山女学園大学研究論集：人文科学篇・社会科学篇・自然科学篇』54号、PP.201-221

# 課題研究論点整理

子どもインタビューと話合いの分析から

山田真紀（椋山女学園大学）

# 育てる子どもの資質・能力

- 自分の意見を持つこと（意思決定）
- 自分の意見を表明すること
- 他者の意見を受け止めること
- 出された諸意見（含理由）を比較検討すること
- 少数意見にも配慮すること
- みんなが納得できる納得解を模索して合意形成すること
- 見通しをもって物事を実現させる（役割分担・計画作り）」等。

※土井先生のお話との関連（自分の意見がいえる、否定的意見が言える）  
心理的安全性

# 未来志向型コンピテンシー

- 共同的問題解決力
- 協働性
- 主体性
- 企画力・実行力

# 今後の課題

形はかなりできている！

日本でもここまでできているクラスは少ない？！

みんなが納得できる納得解を模索して合意形成すること  
少数派にも配慮した「納得解」を見出すこと

本当にできているか？

説得？！ 全員賛成？！ 意見スルー

《ロゴを決めよう》

- 私たちのクラスってどんなクラス？
- どんなクラスにしたいの？

イメージの共有がない    ▶ 思い付きをポンポンいう    合意形成難しい

《感謝の気持ちを伝えよう》

- クラスでできること
- お金がかからないこと

条件が明確でない    ▶ お菓子をあげる    放送をかける

《遠足の場所を決めよう》

- 考古学的な場所
- 1時間程度で公共交通機関で行けるところ

条件が明確でない    ▶ 海に行く    パリの凱旋門に行く

議論の枠づけがない 「自治的」

- 枠の中で「人間関係」の筋トレするイメージ ※土井先生のご講演
- 折り合いをつけた合意形成のスキル（他者・双方の立場を理解する）
  - ☛ ガザの仲介をできるスキルが身につく??
- 個の利益→集団の利益（他者の立場・少数派への配慮）
  - 行き過ぎると「集団圧力」?!

自分のベター & みんなにとってのベスト